

曹洞宗 茂林寺

分福茶釜の寺



青龍山茂林寺。分福茶釜の寺として知られる当山は、
応永三十三年（1426年）、大林正通大和尚によって
開山された曹洞宗寺院です。

➡ 行事のお知らせ・周辺案内



茂林寺の歴史



分福茶釜と茂林寺



境内のご案内



拝観のご案内



交通案内



行事のお知らせ

■茂林寺の年間行事

「花祭り」 5月7日、8日開催 於守鶴堂

※新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、
行事等は中止とさせていただきます。

周辺案内

茂林寺周辺で行われる行事のご案内と関連リンク

■周辺地域の恒例行事

「茂林寺沼の湿原を守る会」清掃活動（年数回）

「茂林寺坐禅会」毎月第3日曜日 午前6時より

「新年参禅会」元旦午前0時20分より（茂林寺境内にて）

「つつじの館林七福神めぐり」1月3日～1月31日

■関連リンク

館林市観光協会 <https://www.utyututuji.jp/>

館林名所七所めぐり（館林七福神） <https://tutuji7fuku.com/>

祥雲山龍泰寺（岐阜県） <http://ryutaiji.com/>



茂林寺

〒374-0033 群馬県館林市廻工町1570

Tel0276(72)1514

✉ e-mail

Copyright © 2021 Morinji All Rights Reserved.



茂林寺の歴史

曹洞宗の名刹、青龍山茂林寺は、その間山を大林正通としています。正通は美濃国土岐氏の出目で、華叟派の祖、龍泰寺間山華叟正尊の法嗣でした。

寺伝によると、正通は諸国行脚の折、上野国に立ち寄り、伊香保山麓で守鶴と出会います。この守鶴は、のちに茂林寺に分福茶釜を持ち込んだ老僧です。

応永三十三年、正通は守鶴を伴い、館林の地に來住し、小庵を結びます。

応仁二年、青柳城主赤井正光（照光）は、正通に深く帰依し、自領地の内八万坪を寄進し、小庵を改めて堂宇を建立し、青龍山茂林寺と号しました。正光（照光）は、自ら当山の開基大檀那となり、伽藍の維持に務めました。

大永二年には、後柏原天皇から勅願寺の輪旨を賜ります。

寛永十九年(1642)には、三代將軍徳川家光より二十三石四斗余の朱印を下賜されております。

茂林寺

〒374-0033 群馬県館林市堀工町1570

Tel0276(72)1514

✉ e-mail



文福茶釜と茂林寺

当山は分福茶釜の寺として知られております。寺伝によると、開山大林正通に従って、伊香保から館林にきた守鶴は、代々の住職に仕えました。

元龜元年(1570)、七世月舟正初の代に茂林寺で千人法会が催された際、大勢の来客を随う湯釜が必要となりました。その時、守鶴は一夜のうちに、どこからか一つの茶釜を持ってきて、茶堂に備えました。ところが、この茶釜は不思議なことにいくら湯を汲んでも尽きることがありませんでした。守鶴は、自らこの茶釜を、

福を分け与える「紫金銅分福茶釜」と名付け、この茶釜の湯で喉を潤す者は、
開運出世・寿命長久等、八つの功德

に授かると言いました。

その後、守鶴は十世天南正青の代に、熟睡していて手足に毛が生え、尾が付いた貉(狸の説もある)の正体を現わしてしまいます。これ以上、当寺にはいられないと悟った守鶴は、名残を惜しみ、人々に源平屋島の合戦と釈迦の説法の二場面を再現して見せます。

人々が感涙にむせぶ中、守鶴は貉の姿となり、飛び去りました。時は天正十五年(一五八七)二月二十八日。守鶴が開山大林正通と小庵を結んでから百六十一年の月日が経っていました。

後にこの寺伝は、明治・大正期の作家、巖谷小波氏によってお伽噺「文福茶釜」として出版され、茶釜から顔や手足を出して綱渡りする狸の姿が、広く世に知られる事になりました。

茂林寺

〒374-0033 群馬県館林市堀工町1570

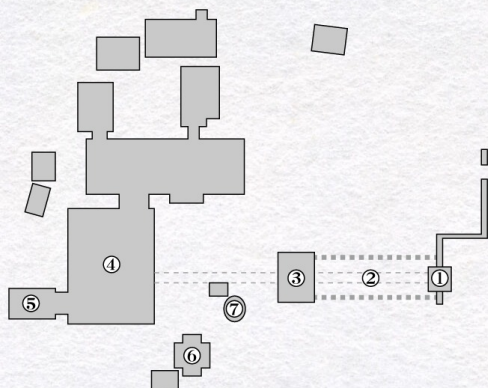
Tel0276(72)1514

✉ e-mail

Copyright © 2021 Morinji All Rights Reserved.



境内のご案内



①総門（通称黒門）

当寺の入り口となる門。応仁2年（1468年）に建立されました。



②参道

総門から赤門へと続く参道には、21体の理像が並び参拝者を出迎えます。



③山門（通称赤門）

黒門から本堂へと続く門。元禄7年（1694年）の建立です。



④本堂

当寺の本尊、釈迦牟尼仏像が祀られています。応仁2年に建立。享保12年に改築を行い、現在に至ります。また、本堂北側の一室には分福茶釜が安置されています。



⑤正通大和尚像、守鶴像

当山の開山大林正通大和尚と、之に随いこの地に至った守鶴和尚の像が安置されています。



⑥守鶴堂

守鶴和尚は大林正通大和尚と共に当地に小庵を結んで以来、歴代の住職に役僧として仕え、分福茶釜を当山にもたらしたと伝えられています。当山鎮守大菩薩として祀られています。



⑦聖観音

上野国館林村大窪荘の高瀬善兵衛の像が元禄元年（一六八八）病没し、その供養の為に江戸神田鍋町の太田久右衛門（藤原正儀）が鑄造し、高瀬善兵衛が元禄三年三月二二日に寄進したものです。

茂林寺

〒374-0033 群馬県館林市堀工町1570

Tel0276(72)1514

✉ e-mail

Copyright © 2021 Morinji All Rights Reserved.



拝観のご案内

当山に代々伝わる分福茶釜などを
ご覧いただけます。

■ 宝物拝観料

おとな：300円

こども：150円

(20名以上1割引・障がい者割引あり)

■ 拝観時間

午前9時～午後4時

火曜・水曜・木曜 定休



茂林寺

〒374-0033 群馬県館林市堀工町1570

Tel0276(72)1514



e-mail



印刷用PDF

Copyright © 2021 Morinji All Rights Reserved.



この地図は国土地理院長の認証を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである(認証番号平20東復第306号)

交通案内

■電車をご利用の場合

東武伊勢崎線、茂林寺前駅から徒歩約7分。

■高速道路をご利用の場合

東北自動車道、館林インターチェンジから国道345号線を館林方面へ約3.5km、
緑町交差点を左折し800m。堀工町交差点を右折して約1.2Km



茂林寺

〒374-0033 群馬県館林市堀工町1570

Tel0276(72)1514

[✉ e-mail](#)

Copyright © 2021 Morinji All Rights Reserved.